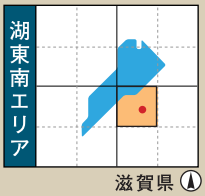
名勝
県指定

福壽寺庭園（ふくじゅじていえん）

近江八幡市馬渕町　昭和58年3月28日指定



福壽寺庭園には、人にうったえかける何かがあります。福壽寺を中興したといわれる梅嶺禅師の『住巌蔵山福寿禅寺諸録』には、「如何なるか是れ、福寿の境」との質問に、師が「高低、雲樹を繞（めぐ）る」と答えています。また、北村李吟が「心から　見るもこと也よのつねの　山はこれ山水は水」と詠んでいます。

当時のできごと	
1167年	平清盛が太政大臣になる
1576年	信長安土に移る
1680年	徳川綱吉が5代将軍となる

福壽寺について

天長6年（829）に、淳和天皇の勅願で七堂伽藍が建立され、「巌蔵山福壽寺」と名付けたのが福壽寺の草創とされています。現在の御本尊は在地豪族の中原氏が奉安した千手観音像で、「いわくら観音」として信仰を集めています。この御本尊は重要文化財に指定されていますが、大正9年（1920）に修理した際に、嘉応2年（1170）の銘を始め、千躰仏版画などが胎内から発見され、注目されました。

元亀元年（1570）、織田信長の兵火にあって本尊のみが残り、草堂に祀られて約100年間、里人の奉仕にまかされていましたが、延宝8年（1680）になって、梅嶺禅師が黄檗宗の寺院として再興し、現在に至っています。


中島と通幽橋


福壽寺庭園全景

庭園の特徴

庭園の築庭時期は、福壽寺が中興された時だと思われています。

庭園は書院の山側にあって、開山堂と本堂、そして通幽橋と呼ばれている渡り廊下で囲まれています。山の北東部斜面の麓に深い池が設けられ、池は、通幽橋の下をくぐって参道の際まで続きます。池の中には中島があり、2つの切石の橋が山へと導きます。山手に渡ると立派な亀甲石が目を引きます。多くの石仏が配された山には石段で登ることができます。

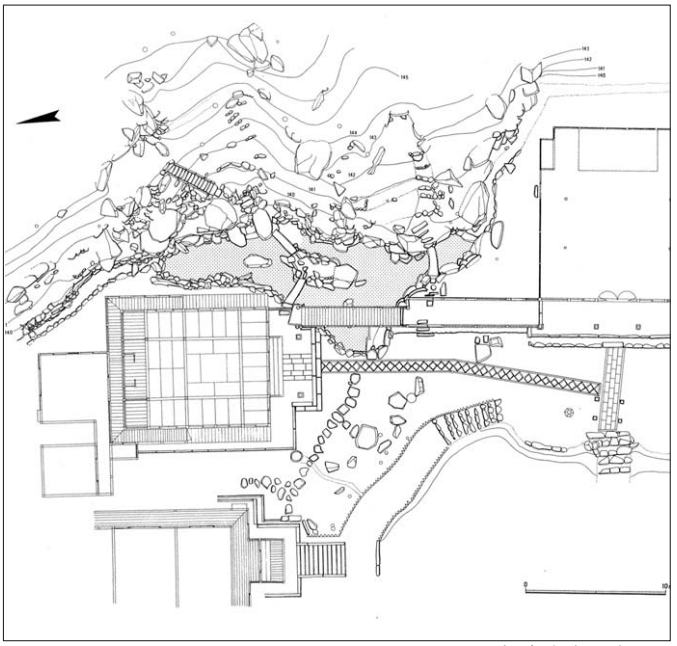
全体的に大きな石をふんだんに配した、池泉鑑賞式の庭園で、境内から木々を間に通して見るのもまた別の趣があります。



石段横の亀甲石



幾何学的な美しさの飛石



福壽寺庭園実測図

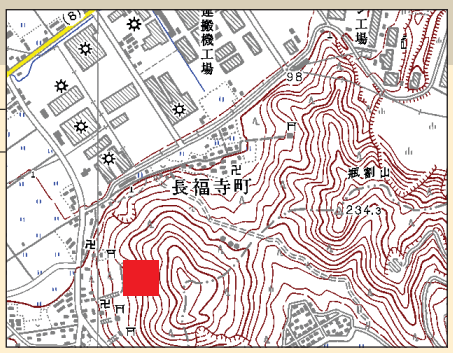
関連する文化財

木造千手観音立像（福壽寺）	嘉応2年（1170）に在地豪族中原氏繁栄を祈願して造立されたことが胎内銘によりわかる。一木造り
千僧供古墳群（近江八幡市）	学習シートNo.042

もっと深く知りたい

近江八幡市立資料館	☎0748-32-7048	近江八幡市新町2-22
近江八幡市教育委員会	☎0748-36-5529	近江八幡市桜宮町236

福壽寺庭園へのアクセス　JR琵琶湖線　近江八幡駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月